

通し番号	4866
------	------

分類番号	29-25-13-01
------	-------------

ペルメトリン乳剤はハコベ栽培に使用できます

[要約] ハコベに対する殺虫剤の適用拡大のため、薬効試験、作物残留試験および限界薬量薬害試験を行い、平成30年3月28日にペルメトリン乳剤がオオタバコガに適用拡大され(3000倍、収穫21日前まで、1回)、農薬として使用できる。

神奈川県農業技術センター生産環境部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

「春の七草」は横浜、三浦で生産され、国内有数の産地となっている。このうちハコベ(図1)は登録農薬が非常に少なく、生産現場では、突発的に発生する害虫類の対応に苦慮している。そこでペルメトリン乳剤のハコベへの適用拡大をすすめるため、オオタバコガに対する薬効試験、作物残留試験および限界薬量薬害試験を行う。

[成果の内容・特徴]

- 1 ハコベのオオタバコガに対して、ペルメトリン乳剤の3000倍希釈液散布は防除効果が高く、実用性が高い(表1)。
- 2 ペルメトリン乳剤3000倍希釈液の150L/10a散布処理21日後、28日後および35日後の収穫物におけるペルメトリン残留量はいずれも残留基準値(その他の野菜、3ppm)を下回る(表2)。
- 3 ペルメトリン乳剤3000倍あるいは1500倍の十分量散布によりハコベに薬害は認められない(表3)。
- 4 以上の結果をもとに、ハコベのオオタバコガに対し、ペルメトリン乳剤が平成30年3月28日に適用拡大された。

[成果の活用面・留意点]

- 1 登録された使用方法は、ハコベのオオタバコガに対して、希釈倍率「3000倍」、使用時期「収穫21日前まで」、使用回数「1回」である。(平成30年5月現在)
- 2 慣行どおりに保温用の被覆を行って栽培すると成長が促進され、無被覆に比較して相対的に農薬残留量は低下するため、農薬散布を行った場合は、残留量を低減するよう、被覆を行うことが望ましい。
- 3 ラベルに記載された使用方法を守り、正しく使用する。

[具体的データ]



図1 ハコベ（出荷形態）

表1 ハコベのオオタバコガに対するペルメトリン乳剤3000倍散布の防除効果（平成27年度）

希釈倍率	80株あたりのオオタバコガ寄生虫数 ^{x)}									葉害
	散布前（10月20日）			処理3日後（10月23日）			処理6日後（10月26日）			
	若・中齢虫	老齢虫	計	若・中齢虫	老齢虫	計	若・中齢虫	老齢虫	計	
ペルメトリン乳剤 3000	15.7	0.0	15.7	3.3	0.0	3.3	0.7	0.0	0.7	—
補正密度指数 ^{y)}	25.1						7.5			
無処理	—	13.0	0.0	13.0	11.0	0.0	11.0	4.7	2.7	7.3

x) 寄生虫数は3反復の平均値

y) 補正密度指数 = $\frac{\text{処理区の〇日後密度}}{\text{処理区の散布前密度}} \times \frac{\text{無処理区の散布前密度}}{\text{無処理区の〇日後密度}} \times 100$

表2 ペルメトリン乳剤処理後の作物残留濃度（平成26年度）

三浦市ほ場				横須賀市ほ場			
無処理区	ペルメトリン乳剤処理区			無処理区	ペルメトリン乳剤処理区		
	処理後経過日数				処理後経過日数		
	21日	28日	35日		20日	27日	34日
<0.01	0.17	0.07	0.02	<0.01	0.38	0.14	0.04

単位：ppm

残留農薬基準（その他の野菜）：3ppm

表3 ペルメトリン乳剤限界薬量薬害試験

供試薬剤	処理濃度	横須賀市ほ場（平成26年度）			農業技術センターほ場（平成27年度）		
		処理後経過日数			処理後経過日数		
		7日	14日	21日	7日	14日	21日
ペルメトリン乳剤	1500倍	— [*]	—	—	—	—	—
	3000倍	—	—	—	—	—	—
無処理	—	—	—	—	—	—	

※ —：薬害認められない、+：薬害認められる

2反復実施

[資料名] 平成26、27年度生産環境部試験研究成績書

[研究課題名] かながわ特産品等マイナー作物に対する農薬登録促進

[研究期間] 平成26～27年度

[研究者担当名] 折原紀子・大矢武志・原康明・植草秀敏

[協力・分担関係]